

惑を償ひ更に我生存を意義あらしむる爲に進みて社會に貢獻する所なかるべからざるにて候。されは萬一極力なほ其身が受くる恩恵を償ふに足らざる人は如何致すべき道德はなほ自殺を罪惡と宣言致し候や。君は民の爲に憂ひ親は子の爲に苦しむ吾人の生の立場を相對的に求むるは一般の場合として不可能の様に存せられ候。然らば吾人は何が故に生きざるべからざるか。常々吾人の所謂道德は「人は死なざるべからず」と假定してさて萬人が互にそこに到達すべく都合よき方便を東西古今の經驗に徴して造り上げし一大道路に候この道路を安んじて進むには其目的地點即ち生の立場を明に認知せざるべからず候。而して今世にすむ人盡く之を認知せるや否

やは疑問に候。少なくとも我自身は我眼の不明をかこち居候。なほ日々の見聞に依れば其目的地點を見えざるが爲に或は道に倦み或は困難に撓みて道德の謀反者となれるも之ある様に承知致し候。今その電車道路が幾多の工夫のツルハシもて破壊せられ居るを見てもこの人生の大道の前途おぼつかなく存せられ候。早くこの道をしてたゞに方便たるに止らずオーソリチーたらしめ道を保全し人を救ひ度くと存候絶對なるべき人生の目的地に松明かゝげて之を明むる人は誰にか候はん。生意氣とお笑ひ下さるまじく一寸の虫にも五分の魂と申候へばあなかしこ。以上去つてはならぬ通れてはならぬ苦界にもかく弱者より申上候 Y 様に。

戦ひを好まず、狭き孤獨の安快により生活を馴致したる國民は、遂に男らしき、冒險的な性質を失はざる、他國民の前に拜跪すべきのみ。
ルーズベルト。(奮闘的生活)

報 録

◎第廿六回文科学術談話會

大正二年十一月八日午後一時より例の如く談話會を開催す。文學博士福來友吉先生を聘して一場の講話を請ひ得る所多かりき。
講演順序左の如し。

- 一 開會の辭 岡田 先生
 - 一 ハーバード大學副總長の講演をよみて 文四 齋藤たまを
 - 一時と人格 福來 先生
 - 一 日本の傳説 文二 川上 靜江
- 福來先生の御講話は暗澹たる現代思潮の渦巻の中に處する我等にとりて一道の光明であり指導であり確信であり又覺悟である。うれしく承る。
午後四時半閉會。

◎第六回會計報告

自大正二年六月廿七日
至大正二年十二月一日

收入	金七拾壹圓〇六錢	前より繰越し金	金三拾四圓〇五錢
内譯金	金貳拾壹圓拾五錢	會員よりの會誌代	金四拾六錢
支出	金拾五圓四拾錢	銀行 利子	金四拾圓八拾五錢
内譯金	金參拾壹圓九拾錢	贊助員十七人分會費	金參圓
會誌 送料	金四圓五拾貳錢	六號印刷代	金壹圓四拾參錢
其他の雜費	金壹圓四拾參錢	廿七回例會費用	差引殘金參拾圓貳拾壹錢也